

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	24人	国語B	24人
② 算数A	24人	算数B	24人

5 留意事項

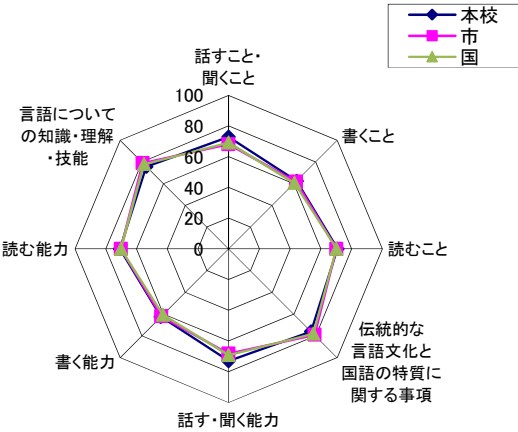
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

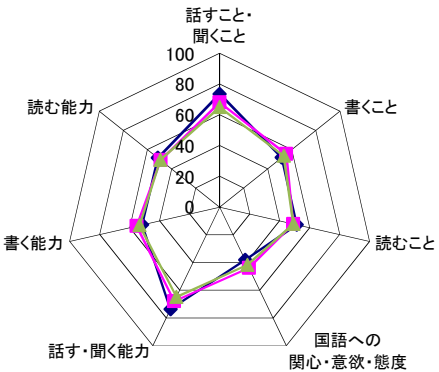
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.9	68.2	69.2
	書くこと	62.5	62.0	60.6
	読むこと	70.8	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.9	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	72.9	68.2	69.2
	書く能力	62.5	62.0	60.6
	読む能力	70.8	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	75.9	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.6	68.0	64.9
	書くこと	51.7	55.3	53.4
	読むこと	51.4	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	38.2	43.9	41.7
	話す・聞く能力	73.6	68.0	64.9
	書く能力	51.7	55.3	53.4
	読む能力	51.4	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

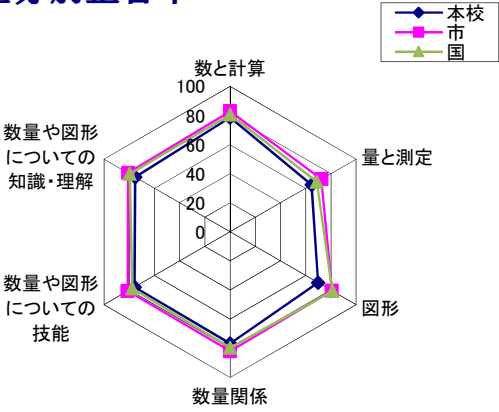
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「国語A」では、学級文集のタイトルを決める話し合いにおける正しい説明を選択する問題の正答率が、県の平均より6.3ポイント高かった。「国語B」では、スピーチメモを使うことのよさについて答える問題の正答率が、県の平均よりも14.9ポイント高かった。	・引き続き、少人数のグループでの話し合いやクラス全体の話し合いなど、形態を変えて話し合いの練習をする場を設ける。また、自分の考えと比較しながら話を聞いたり、目的や意図を意識させながらスピーチをしたりする活動をさらに充実させていく。
書くこと	○「国語B」では、目的や意図に応じて引用する文章を選択する問題の正答率が、県の平均より9.2ポイント高かった。 ●「国語B」では、目的や意図に応じて必要な内容を整理して書く問題の正答率が、県の平均より10ポイント以上低かった。	・目的や意図に応じて、取材や方法を工夫し、書く事柄を収集した上で、具体的な事実と自分の感想、意見などとの区別しながら必要な内容を整理して書くことができるようにする。また、依頼状や礼状を書く際には、文字数を制限したり、目的に合わせて書く事柄を整理させたりし、伝えたいことを適切に表現できるようにする。
読むこと	○「国語A」の目的に応じて文章の中から必要な情報を見付ける問題や、「国語B」の登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題における正答率は、県の平均より6ポイント以上高かった。 ●「国語A」の俳句のよさを答える問題での正答率が、県の平均より6.5ポイント低かった。	・教科書に掲載されている作品や俳句集などを繰り返し音読させ、言葉の響きやリズムに着目して俳句に表れている情景や作者の思いなどについて読み取らせていく。自分が感じたことを友達と交流させることで、自分が想像したことを広げたり深めたりできるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ことわざの使い方として正しいものを選択する問題では、正答率が県の平均を上回っている。漢字の読みについては、比較的正答率が高いが、県の平均をやや下回っている。 ●漢字を書く問題での正答率が、県の平均と比べて低かった。	・漢字の読み書きについては、朝の学習や宿題等で反復練習したり、小テストで確認したりしているので、今後も継続して指導していく。また、文章を書くときには、漢字を使うように意識させ、書けないときは辞書で調べられるように環境を整えていく。

宇都宮市城山中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

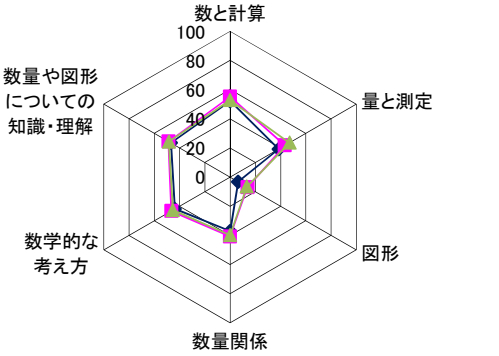
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	78.6	82.9	80.6
	量と測定	64.6	72.5	68.8
	図形	69.8	80.8	81.1
	数量関係	76.7	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	75.8	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	75.3	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.1	55.1	52.8
	量と測定	38.5	43.4	47.0
	図形	6.3	13.8	13.2
	数量関係	37.0	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	43.8	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	46.9	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は、算数Aは全国平均より低かったものの算数Bは全国平均とほぼ同程度であった。 ●1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量関係を数直線に表す設問では、正答率が6割を下回っており、乗数が整数の場合を基に、乗数が小数の場合について数直線などに数量の関係を表すことが課題であると考えられる。	・整数の計算についてはおおむね身に付いているので、小数や分数の計算、四則混合の計算など様々な問題に繰り返し取り組み、確実な定着を図る。特に、小数のたし算とかけ算で位をそろえて計算することと末尾をそろえて計算することが混同しやすいので、その都度確認を行う。 ・算数Bの問題においては、二つの数量の関係を言葉と数を用いて一般化できるように指導を行っていく。
量と測定	○領域の平均正答率は、算数Aは全国平均を下回っていた。算数Bは全国平均とほぼ同程度であった。	・基礎的な問題の正答率が高いことから、今後も補充プリントを活用して習熟を図っていくようにする。 ・何が根拠として必要になるか、解決の見通しを明確にしてから説明を書き始めるように取り組ませる。また、なぜそのように考えたのか理由を問うことで、児童自らが筋道を立てて考えたり説明できたりできるようにさせたい。
図形	○立方体の展開図から、平行な面を選ぶ設問では、正答率が高い。 ●図形領域の平均正答率は、算数A・Bとも全国平均を下回っている。 ●円を活用して正五角形を作図する設問では、正答率が全国平均を下回っている。	・基礎的な問題の正答率が高いことから、今後も補充プリントを活用して習熟を図っていくようにする。 ・発展的な問題や記述を要する問題に課題が見られることから、複雑な問題でも解決する力を身に付けられるように、児童の実態に応じて習熟度別学習なども取り入れて個に応じた指導の充実を図りたい。
数量関係	○領域の平均正答率は、算数A、Bともに全国平均と同程度であった。 ●未知の数量を表す□を用いて、問題場面を式に表す設問では、正答率が全国平均を下回っている。 ●二次元表を分類整理する設問では、正答率が全国平均を下回っている。	・□を用いた式を指導する際には、問題場面を捉えられるように、図を用いたり、□に具体的な数値を当てはめたりして考える活動を取り入れる。 ・二次元表は、資料を二つの観点から分類することを確認し、二次元表の仕組みを理解させる。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか。」では全員が肯定的回答をした。また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。」でも肯定的回答が95.8%と、県の肯定的回答率を上回っている。これは、学校・学年・学級で、友達と協力して活動することで成功体験や達成感を得ることができているからだと考えられる。

○発表に関する項目では、肯定的回答が県の平均と比べても高い。特に、「5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。」の項目では、全員が肯定的回答をしている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」での肯定的回答割合は62.5%で、県と比べて13.5ポイント高く、発表することに自信を持っている児童が多いことが分かった。国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していると回答した児童も県の肯定的回答よりも19.7ポイント高かったことから、授業の中で相手を意識して話の組み立てを工夫することで、自信を持って発表できる環境づくりができていると考えられる。

○「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。」の質問では、肯定的回答が97.9%と、県よりも21.8ポイント高かった。生活科や社会科、総合的な学習の時間等で行っている地域を活用した学習の成果と見られる。また、本の読み聞かせや農業体験で地域の方々と関わる機会が全学年にあり、児童自身が地域の方々に支えられていると実感できる場面が多いことも考えられる。

●「学校のきまりを守っていますか。」の質問では、肯定的回答が85.4%と、県平均よりも9.3ポイント低かった。規範意識について、学校生活や学級活動の中で適宜指導したり、守れているときには称賛して周りに広めたりする。

●家庭学習についての質問の肯定的回答は県のポイントを上回るものが多く、家庭学習の習慣化が図れていることがうかがえる。しかし、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」の質問では、1時間未満と答えた割合が48.0%と、県の回答よりも17.2ポイント高く、家庭学習の時間が少なかった。休日に関しても、同様のことが言える。放課後の過ごし方についての質問で「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答する割合が87.5%いることから、放課後の過ごし方を、家庭と連携して指導していく。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」の質問では、「10分より少ない」「全くしない」と回答した児童の割合は県の回答率より10ポイント高かった。今後、児童の読書に対する関心を深められるよう、本校の特色の一つである読書活動(朝の読書や家読、読書リレー等)で、児童が本に触れる時間を確保したり、家庭への啓発に努めたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
振り返りの活動の充実	学習のまとめと振り返りの仕方について、共通理解を図り、学習に応じたまとめと振り返りを行う。	・授業で目標が示されていたと回答した児童は97.9%、学習を振り返る活動をよく行っていたと回答した児童は91.7%と、肯定的回答が高い割合であった。このことから、その時間の学習内容の目標に対応したまとめや振り返りができていることがうかがえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「言語についての知識・理解・技能」や算数の「数量や図形についての技能」の領域で、市平均よりも低い正答率であった。	基礎・基本の定着	・学習ミニプリントを作成し、前年度の系統的な学習の復習等の学習場面で活用していく。また、算数で活用できる表やグラフなどの書き込み式のプリントを作成する。